

Gの政治考



Gの政治考は
公式サイトで更新中です。
<https://gaun-yoshinao.com/>



2019.9.2

天の時、地の利、人の和

松本で捲土重来を期してから、3年半が経とうとしています。立候補表明から投票日まで2か月という超短期決戦の市長選挙で落選した夜、敗戦の弁を述べたときの光景は、今も目に焼き付いています。「もう一度やり直す」。4年という長さにも何の見通しも立たない状況で、それだけは揺るぎない想いでした。



捲土重来の由来は、紀元前の中国に遡ります。垓下の戦いで劉邦に敗れた項羽が、長江西岸まで落ち延びてきたときに、現地の長が「土煙を巻き上げようにもう一度チャレンジせよ」と説得したと伝えられています。項羽自身は「天はもう私を見放した」と勧めを断って自ら命を絶つわけですが、「捲土重来を期す」というフレーズは、後世に語り継がれていきました。

今から16年前、40歳になった直後だったと思います。承服できない事態が続く、NHKを退職して、徒手空拳で政治家を目指す決意を固めようとしたときがありました。その際、最後の後押

しを期待して、尊敬していた政治家を訪ねて覚悟を伝えました。「そうか、わかった」と背中を叩いてくれるだろうと思っていたところ、「天の時、地の利、人の和はあるか」と厳しい表情で問い返されました。甘えを見透かされたような気持ちになったことを記憶しています。それ以上は言葉が続かず、席を後にしました。そして、自問自答を繰り返した挙句、政治家への道は封印し、NHKに残って報道の仕事をするようになりました。

平成の時代、松本市は、対照的な2人の市長が舵取り役を担いました。前半の有賀市長は、「先人木を植え、後人涼を楽しむ」を座右の銘に、公共施設の建設に貪欲に取り組み、それらの先行投資を、世界的な指揮者である小澤征爾氏の招聘や公民館文化に根ざした福祉の拠点づくりに結びつけました。一方、後半の菅谷市長は、超少子高齢化人口減少時代の到来を見据え、公共投資にブレーキを掛けながら、「健康寿命延伸都市」を旗印として、検診予防に重点を置いた健康づくり政策や行政に頼らない市民意識の醸成に力を注ぎました。その間に、松本市は5つの町村と合併して3倍のエリアに広がり、来年2020年に10年の節目を迎えます。

令和の時代、松本市の大きな課題は、エリアが広がったことを地理的な優位

性に変えられるかどうかです。自分たちの声が市政に届かないという不満は、平成に合併した5町村だけでなく、中心部から郊外まで各地域が共通して抱えています。文字通り地域の特性を活かした街づくりを進め、松本全体として多様性の魅力を高めるために、35の地区町会や7つの地域ブロックという単位を念頭に、思い切った分権を実行して、地域拠点を強化することが必要です。市役所のソフト・ハードの両面を分散&ネットワーク型へ抜本的に見直すことで、松本の地の利を最大限に活かしていけると考えます。

NHKという大きな組織から離れ、故郷・松本で暮らした3年半で、世代や分野を超えた大勢の人たちと新たなつながりを持つことができました。そうした仲間とスクラムを組み、松本のイノベーションに取り組んでいきたいと思えます。目指すのは、誰も置き去りにしない街、一人ひとりが豊かさを追求できる街です。そのために、全世代が恩恵を受けられるように ICT インフラを広く普及させ、幼児からの教育や地域包括ケア社会、公共交通の改革に積極的に投資する考えです。

「天の時、地の利、人の和」がすべて揃ったと胸を張って言えるように、残り半年、土煙を巻き上げながら活動していきます。

2019
9

vol.12

Lの視点で、Gの時代を穿つ

G通信

臥雲義尚 × リポート

臥雲は日々何を考え、活動しているのか。その横顔と頭の中を覗けるニュースレターです。

松本のポテンシャルを開花させる

松本市に〈7つのブロック〉という地域区分があることをご存知でしょうか。明治、大正、昭和、平成と、町村合併を繰り返してきた歴史的経緯に基づく区分で、深志中・深志北・深志南・河西部・東山部・南部・西部と名付けられています。

この夏、ブロックごとに松本市の課題と未来を問いただす政治集会を開いてきました。集会を開催するにあたって、事前に地域を戸別訪問し、それぞれが持っている魅力や問題点をできるだけ肌で感じ取ろうと心掛けました。

共通して浮かび上がってくる最優先の課題は、子どもの減少＝少子化の抑止です。15歳以下の人口は、現在のエリアに広がった2010年から9年間で10%減っています。全世代の減少率に比べて5倍のスピードです。

健康長寿が幸せと言える社会にするためにも、子育て政策の先進事例を総動員して、未来を担う

世代が増えていく状況をつくる必要があります。若い世代の結婚や出産の希望が叶うとした場合の出生率＝「希望出生率1.8」を、国に先駆けて早期に実現することが、当面の目標になります。

もう1つ、ブロックの視点に立って強く感じるのは、自然や文化の領域で多様なポテンシャルを持っていること、それが十分に活かされていないという思いを抱えている人が大勢いることです。松本市全域に均一的な政策を当てはめることが、地域と市民の間尺に合わなくなっています。

市役所のあり方を、実状に即して見直す必要があります。令和の松本に求められるのは、多様な地域で暮らす、一人ひとりの課題に真正面から向き合う市役所です。デジタル化・分散化・オープン化を徹底して推し進め、市民の「もっと近くに」存在する市役所を目指していきます。

編集後記

実りの秋。空は高く澄み渡り、さわやかな風が運ばれるようになりました。田んぼの稲穂も頭を垂れて収穫の時を待っています。あれから1285日、「選挙」という文字が頭から離れることはありませんでした。素人ながら続けてきた活動を、励ましてくれた友と、支えていただいた皆様に、感謝申し上げます。いよいよ、あと175日。引き続き、ご支援よろしくお願ひ致します。(くり)

臥雲の会 事務局
〒390-0811
長野県松本市中央1丁目2-24
電話 0263-36-7343
Fax 0263-50-6727
E-mail info@gaun-y.com

臥雲義尚



6/1 【西部ブロック】波田・梓川・安曇・奈川
「西部の活性化なくして松本の活性化なし」+「国内屈指の山岳リゾートの未来」

平成に松本市と合併した西部ブロックから集会をスタートしました。この地域は、梓川から西へ乗鞍高原・白骨温泉・上高地・槍ヶ岳と続く国内屈指の山岳リゾートをはじめ、大自然に囲まれた「松本のフロンティア」ですが、合併による相乗効果を十分生み出せていないというジレンマを抱えています。そうした民意を受けて当選した新人市議の皆さんと共に、西部の勢いを取り戻す課題を再認識しました。



@波田アクトホール

6/26 【四賀地区】
「人口の急減に歯止めをかける」+「広域化した魅力を最大限に活かす」

四賀地区は、東山部ブロックに属しますが、単独で集会を開催しました。合併から14年で、人口は4500人を割り込み、15歳以下の子どもは半分に減っています。急激な人口減少に歯止めをかけることが、喫緊の課題です。この地域には、市街地では味わえない美しい自然景観と、豊かな食に支えられた山麓の暮らしが残されています。負担の少ない交通手段を確保して、住民の暮らしを支えていくことが必要です。



@クラインガルテン

7/3 【南部ブロック】中山・芳川・寿・寿台・内田・松原
「子育て・教育を最優先に取り組む」+「市役所の現地建て替え計画を見直す」

南松本・平田・村井の3駅を中心に新興住宅地が広がる南部ブロック。15歳以下の人口は、寿地区を中心にピークから20%余り減少しています。松本市は、子どもが減っているが待機児童が増えている、安心して子どもを育てられる環境や公教育の充実が必要です。すべての集会で繰り返し訴えてきたのは、スリム化・分散型・現場主義の市役所です。「現地建て替え計画」は根本的に見直す必要があると考えています。



@JA虹のホール芳川

7/29 【東山部ブロック】岡田・本郷・入山辺・里山辺
「自然と共存する里山の暮らし」+「奥座敷と呼ばれた温泉街の再生」

市街地北部の緩斜面から東側に広がる女鳥羽川扇状地と、その源流の三才山から美ヶ原へ続く筑摩山地に囲まれた東山部ブロックには、豊かな森林資源と里山の暮らしが生きています。集会では、ヨソ者と若者の視点から「里山と温泉街の再生」について議論を交わしました。松本の奥座敷と呼ばれてきた浅間・美し・扉の温泉地、美鈴湖や塩倉池などの人工湖、山辺葡萄といった地域の魅力を再発掘し、開花させていきます。



@キッセイ文化ホール



松本に議論を巻き起こそう

ジセダイの松本が
令和を拓く

ジセダイトーク

8/8 【河西部ブロック】島内・島立・新村・和田・神林・笹賀・今井
「松本農業の大きなポテンシャル」+「スポーツを核とした街づくり」

奈良井川流域の西側を指す河西部ブロックは、田園地帯が広がっています。切り花の大規模な施設栽培や独自のブランド米の生産に取り組む農業法人があり、高付加価値の農産品を出荷しています。松本が農業適地であることを内外にPRし、若い世代の担い手を支援する仕組みを行政主導で作ることが求められています。松本山雅のホームスタジアムが立地する地域でもあり、スポーツを核とした街づくりを、空港の国際化と合わせて構想していきます。



@アルウィン

8/30 【深志南ブロック】田川・庄内・鎌田・松南
「希望通り子どもを育てられるまち」+「多職種連携の地域包括ケア社会」

民間シンクタンクの調査で、松本市は、「子育てしながら働ける環境がある」という項目が全国1位でした。果たして現状はどうか、長野県保育連盟の海野会長と共に議論を深めました。待機児童をゼロにする態勢を整えるために待遇を改善して、保育士を確保することが不可欠です。同時に、保育の質の向上に取り組む必要があります。実質が十分に伴っていないとされる「地域包括ケアシステム」についても、行政の主導力が問われています。



@林友ホール

9/12 【深志北ブロック】城北・安原・城東・白板
「城下町の景観を保存し再生する」+「新時代の交通インフラを整備する」

400年の歴史を持つ松本城は、市民の誇りであり、観光資源の要ですが、世界的な基準に照らせば、周辺を含めて魅力をもっと高める必要があります。外堀復元事業と共に、溝上哲朗さんが提起する「本町から天守へのヴィスタ」は景観遺産として蘇らせる価値があります。また、目詰まりを起こしている道路渋滞を緩和するため、松本城周辺を起点に交通インフラを再設計します。市役所の「現地建て替え計画」は、こうした視点からも問題があると考えます。



@ヴィラ・デ・マリアージュ

「がうん義尚 松本新構想を語る」～一人ひとりが豊かさを追求できるまちへ～



広域で多様な松本市の課題と可能性を探ってきた、ブロック集会の集大成として、がうん義尚が構想する松本の未来像を、深志中ブロックの会場にて、広く市民の皆さんにお伝えする集会を開催します。

日時：令和元年10月12日(土) 14:00～15:30

場所：深志神社梅風閣

※詳しくは別紙チラシをご覧ください。